

ARPA・K NEWS LETTER

地域計画・建築研究所



86' アルパック夏の全所研修会 三州足助屋敷にて

アルパック ニュースレター もくじ

- 一枚岩に映画をうつそうー古座川まちづくり物語 2
- 工場遊園“お菓子の城” 6
- 都市臨海部地区活性化の取組みに参加して 8
- きんきょう ○アルパック・夏の陣ー足助・名古屋研修会 10
- 第9回全国町並みゼミに参加して 11
- 旧刊新刊書評 ○続「非まじめ」のすすめ 千輪車の発想 12
- まちかど ○歴史的町並みに調和した銀行2題 14

No. 19

一枚岩に映画をうつそう

—古座川まちづくり物語—

藤田 武彦

御存知ですか古座川町

一枚岩の話をする前に、御存知ない方も多
いと思いますので古座川町のことについて紹
介します。

古座川町は人口4,583人(昭和60年国調)、
和歌山県は南紀串本町の北隣にある山村です。
面積は294km²(大阪市より少し大きい)和歌
山県最大の町域をもつ町です。町域の95%は
森林であり、そのうち60%程度人工林でおお
われています。産業はかつて林業(木材、木
炭)が栄え、古座川の河口近くは一面材木に

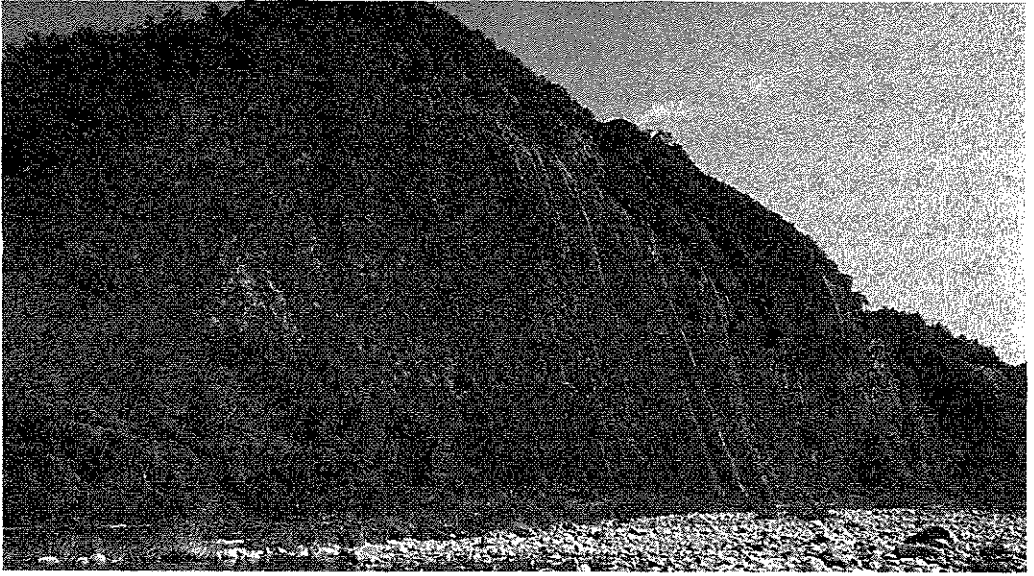
おおわれ、町もにぎわいを見せていたとのこ
とですが、昭和に入り急速に衰退しました。
そのため一時1万人を越える人口(明治期)
がいたこの町も、現在では半分以下の人口に
なる典型的な過疎地となっています。それだ
も、今はユズ、アマゴの生産が徐々に広がっ
てきています。

まちづくりで何を進めようか

私共が古座川とおつきあいを始めたのは、
昭和60年の初め頃、町の総合計画策定を通じ
てでした。初めて行って驚いたのは、町内全



和歌山県市町村位置図



一枚岩全景

体を見て回るのに車で丸一日かかるという町域の広さと、古座川の水の透明感、そして川沿いの奇岩の美しさでした。

一方産業をみると、林業の不振、人口の高齢化は進んでいるものの、ユズ生産、加工（ユズ酢、ジャム等）、花栽培（カーネーション）を進めている若い人たちもおり、彼らと話し合っているうちに、将来への希望も少しずつ見えてくるように思えました。

そんなある日、町の青年団と話し合う機会がありました。その中で印象的だったのは、ある人が「町域が広くて若い人がみんな集まって楽しむことが少なくなった。やりたいことはいろいろあるけどむずかしい」と言ったことでした。それだったらやれそうなことからやってみよう。若い人の活気づくりを頑張ってみよう。それをまちづくりの中心テーマにしようと思いました。その日は酒も入っていたこともあって「ヨシ、一枚岩に映画をうつすぞ」とか「少しぐらい反対されても頑張るぞ」とか、半分開き直って過疎地のことを考えようと氣勢を上げて別れたことを覚えて

います。

一枚岩に映画をうつそう

古座川の川沿いにある奇岩の中でひととき目をひくものに一枚岩があります。写真で見ると、川からはほぼ垂直に切り立った砂岩面です。高さは100m、幅は500mぐらいあり、この岩の説明については、司馬遼太郎氏が「街道をゆく 古座街道」にその感動をのせています。（尚、古座川町には司馬氏の夏季別荘があり、氏のほれこみようがうかがえます。）

私共も古座川町のまちづくりをお手伝いさせてもらっている間、何回となく目にして、すごいすごいと言っていたのですが、今年の4月、知り合いを募って古座川で花見をする企画をもちました。実は花見といいながら、一枚岩にさわれるといった内容を伝え、40名ぐらいで古座川に行きました（4月12日～13日）。花見か岩見かわからない企画になりましたが評判はなかなか良かったようで、その時にも町の方にいろいろお世話になりました。

時期を同じくして、町内では「一枚岩に映

画をうつす」という勢いで出た企画に弾みがつき、青年団が動き出していました。大阪から来た変な連中（我々のことですが）が岩をなでて楽しんでいたことは地元でもいい話のタネになったらしく、一枚岩での企画の一つの自信を与えたようでした。

町は今年で丁度30周年記念、若い町長を迎えて、若い人が伸び伸びやれる条件も整ってきていたようです。今年の6月、地元の青年団、商工会青年部などが中心となり「一枚岩に映画をうつす」具体的な活動に入りました。役場内部でも連絡会議を開き、6月～8月にかけては、地元の各地区でも懇談会を開いて前評判も上々でした。

一枚岩映画祭は8月9日に催されましたが、その準備のため試写も行われました。その時わかったことですが、一枚岩の壁面は茶褐色のため暗い映像では見えにくく、明るい映像にしなくてはなりません。そのためアニメを

中心に3本立でいくことにしたそうです。しかしこれは幸いして、子供連れで家族がやってくるケースが多かったようです。

こうして一枚岩映画祭は催され、御覧になった方もいらっしゃるかと思いますが、8月8日のNHKニュースセンター9時などにも取り上げられました。当初400人ぐらいの参加のつもりが1,500人が河原を埋めました。当日は晴天で、星空も近くに美しく見え、少し蚊もいたようですが気にならず、3時間の映画を楽しみました。

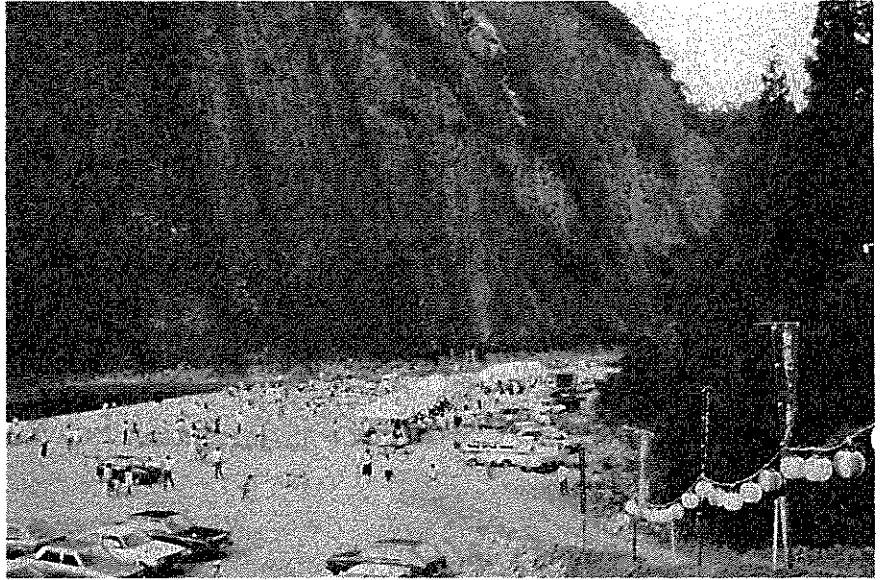
とにかく自分たちで楽しもう

この一枚岩映画祭は正式には、厚生省のヘルスパイオニア事業と、県の都市山村青年交流事業の一環として進められたものです。形式的には私も、都市山村交流事業の都市側の青年として参加しました。正直言って青年交流という言い方をされると面映ゆい感じがして

古座川町制30周年記念 古座川映一枚岩映画祭 日程

(ヘルスパイオニアタウン事業オープニングセレモニー) 主催 古座川町 後援 古座古座川観光協会、古座川町商工会青年部 古座川町青年団、古座川土木組合

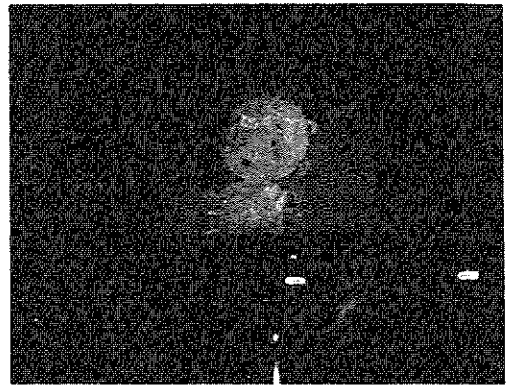
8月9日(土)	天王寺駅	→	串本駅	→	滝の坪	→	一枚岩	
	8:30受付 9:00発 特急くろしお4号		12:08着	バス	14:30～	16:00～	16:30～	19:00～ 21:30
	都市招待青年 約20名		昼食 (民宿山水亭) 12:30～	ポタン荘 (着替え等) 13:30～14:00		歓迎式 (青年団) 18:00～	交流イベント 川(舟)遊び 各種ゲーム 18:00～	映画鑑賞 ミニ座談会 ファイヤー キャンプ 22:00
						地元青年合流 野外夕食会 (17:30～商工会出店がです。) 18:00～青少年大会 (小学生)		あと 一枚岩映画祭 (一般住民参加) た づ げ
						雨天の場合 一枚岩映画祭等は10(B)に順延		中央公民館
						雨 都市青年 14:00～17:30		
						天 小川滝の坪等ミニツアー 18:00～		
						の 地元青年 17:00～		歓迎式
						場 受付 会場準備		18:30～21:00
						合		交流夕食会
								ミニ映画祭
								村おこし交流会議
8月10日(日)	宿舎	→	昼食休憩	→	雨河原	→	串本駅	天王寺駅
	(ポタン荘) 前夜22:30着 7:00～ 7:30発		(古座川荘) 11:30～12:30		1:00～2:30		15:25発 特急くろしお23号	18:31着
	朝食 古座川ミニ観光ツアー (七川ダムetc)				商工会青年部主催 鮎掛け大会へ合流 (鮎つかみ取り)		雨天の場合	体育館映画祭 19:00～ 一般住民参加



一枚岩映画祭の準備風景

多少抵抗があったのですが、一枚岩に行ったらほっとしました。というのは、私たち(大阪、和歌山から14名招待されました)にも十分気を配っていただきましたが、地元の青年団を中心に彼らが十分楽しんでいたので。そうした青年団は20歳代の若者で構成され、町に100人ぐらいいるのですが、この企画には60人加わっていたとのこと。また、映画祭の一週間前からは40人がいつも河原で準備をしていたとのことでした。「これまで集まる機会が少なかったけど、みんな出てきてくれた」「準備は大変だったけど、自主的にこれまでこんな企画やったのは初めてだった」みんな満足そうでした。後片づけもみんなでやって夜中11時近くまでワイワイやっていました。

古座川町は、大阪天王寺から4時間ぐらい(特急くろしお経由)です。そうしてみると意外と近いと思われる方もいらっしゃると思います。そうと思われる方は、是非いらして下さい。4月には七川ダム周辺の1万本の桜が



一枚岩に映った映像

あざやかです。9月には火ふり漁(おち鮎漁)もあります。そしてこれから毎年開かれる夏の映画祭もあります。うまいアユ、山菜、川でとれるズガニ、温泉にも恵まれたところです。子供にも澄んだ古座川での川泳ぎもできるところです。はでな観光地ではありませんし、町内の交通も不便です。それでも古座川に興味を持たれた方はご一報下さい。パンフレット等をお送りします。

(ふじたたけひこ 大阪事務所)

工場遊園 “お菓子の城”

山口 繁雄

ひと頃 “アイ・ピー” というのがはやった。I.P. つまりインダストリアル・パークのことであるが、これを訳して「工場公園」という。この「工場公園」は、緑豊かな環境の工業団地の代名詞として用いられた。昭和40年代後半から50年代にかけてのことであった。

ところが、昭和60年代になると、「工場公園」を越えるものが現れた。ところは愛知県犬山市。その名も “お菓子の城” という。名古屋で行われた所内研修会の折、早速行ってみた。

バスで着いたところは、どこにでもある何の変哲もない工業団地であった。その一画に周りの光景とはきわ立って異なる建物が建っていた。そこが竹田製菓株式会社の “工場”。

しかし、その建物は工場のイメージとは程遠い “白亜の殿堂” で、北海道庁を真似てつくられている。

殿堂の前にはトンガリ屋根のゲートがあり、石貼りの前庭があり、そこには池があって、その池の真中にはトナカイの引くソリに乗ったサンタクロースのブロンズ (?) 像が置いてある。池の前にはキューピットが弓矢を引いた像があって、その引いた矢が白亜の殿堂の屋上の塔についているハートにつきささっている。前庭には若いカップルや子供連れのファミリーが溢れている。まさにここは工業団地の中の “別世界” だ。

白亜の殿堂の中に入ってみる。すると眼前には巨大なケーキがそびえ立ち、白いらせ



お菓子の城（愛知県犬山市字新川1番の11 犬山工業団地内）

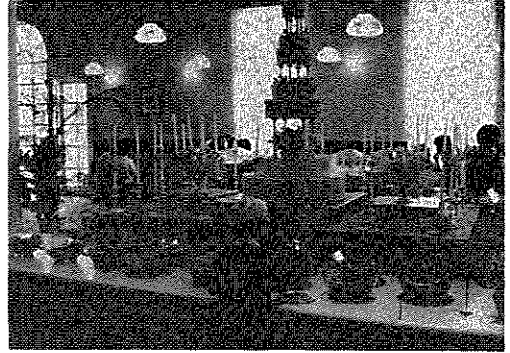
ん階段があり、案内カウンターがあり、その周囲にはお菓子を売るカウンターやコーナーが並んでいる。両サイドの部屋は、お菓子でつくったヨーロッパの城や造花を見せるところ。ここは、いわばお菓子の展示・販売スペース。後でわかったが、ここの販売コーナーは、白亜の殿堂の後ろにくっついている工場でつくったお菓子を売っている。

2階に上がると、何とお菓子のバイキングコーナーもある。大人1,000円で食べ放題と書いてあるが、私などはちょっと入る気にはなれない。しかし、女性や子供には大人気で、ここも人で溢れている。また、ちょっとしたホールもある。

この展示・販売スペースの後ろに菓子製造工場がくっついており、ピンク色で統一された通路がそれに通じている。この通路を歩いていくと自然に工場の見学ルートに入り、オートメ化されたお菓子の製造過程をガラス越しに見学できる仕組みになっている。

一面にはお菓子の手づくり部屋も設けられている。そこでは自分でお菓子ができることになっており、さながら料理教室風。

工場の方にみんなでヒヤリングした。何故こんなことを思いついたのかと問うと、何でも社長がハワイでこれに似た形式の工場を見たことがあって、そこのコンセプトをここで



お菓子のバイキングコーナー

具体化したということであった。いただいたパンフレットには“観光工場”という言葉が使われていた。しかし、観光工場というよりも“工場遊園”といった方がイメージにピッタリする。何しろこの“工場”は、若いカップルのデートコースにもなっているのだから。

もっとも工場見学を主とする産業観光というのが大阪等では今でも行われている。また、サントリー等では工場見学だけでなく製造工程をビデオで見せたり、サロンで飲食サービスを行ったりするところもある。しかし、ここはそれらをはるかに越えている。

昨今、産業のソフト化、サービス化がうたわれているが、これもその一つの形態かもしれない。名古屋方面にお出かけの節は是非一見をおすすめしたい。

(やまぐちしげお 大阪事務所)



ぶきっちゃんさんの部屋(クッキー作り)

都市臨海部地区活性化の取組みに参加して

金井 萬造

都市臨海部のウォーターフロント（水辺）を対象にした計画や事業が数多く取り上げられていますが、ここでは、具体的な地区を対象として活性化構想づくりの経験を述べさせていただきます。

1. 構想の内容

大阪市の安治川沿の港湾空間を対象にして、40数人のボランティア集団で、GOLDEN DOOR「OSAKA ASYLUM」大阪租界・生活遊芸工房「川口・安治川異人町」構想という非常に長い名称のものを発表しました。（私自身はアドバイザーとして参加）

構想は、3つの柱からなっています。

- ① “アジールの空間”としての「大阪租界」
- ② 職・住・遊の一体的空間としての「生活遊芸工房」
- ③ 国際都市・大阪にふさわしい異人達の空間「川口・安治川異人町」

これらのうち「生活遊芸工房」としての新しい職人まちを重視し、アーティストやクリエイターなどの生活と文化・芸術の橋渡しを「水の都・大阪」のウォーターフロントで行い水辺空間の再生と活性化に結びつけます。

川口・安治川地区は、来年には大阪開港120年、居留地開設120年を迎えます。計画づくりにあたっては、イメージ・シンボルになる古い教会や倉庫があり、ランド・マークとして、安治川トンネル、海員会館、河村瑞賢紀功碑や各種港湾関連施設があり、これらの施設をスクラップするのではなく、うまく活用・利用した活性化の方向をねらっていきたく

考えています。

地区の活性化にあたって新しい交通アクセスを整備することが重要であり、都心部でもあることから、水上交通の拡充と復活として、水上バス、水上タクシー、渡しを、公共交通網の整備として、地下鉄、軽便モノレール、ヘリポートなどを提案しています。

2. 地区活性化の方向

町づくりにあたっては、そこに住み、生活をし、仕事をし、遊びもできる町をめざすと共に、地元との協調として九条地区とも連担した町づくりをめざしたいと考えていますが、ウォーターフロントと緑を生かした親水都市空間づくりと地区の歴史と伝統、資源と景観を生かした新しい空間づくりとしたいと思っています。

この新しい都市空間では、アーティストやクリエイター達が創造的に活動し、自らの才能で成功への階段を駆け登っていく人々が集まってくる町、生活型の24時間街区の実現をめざしています。

都市の活性化の視点からみると、新しい都市型産業づくりとして、生活文化型産業の創出と観光と文化のエリアの創出をめざしたいと考えています。

以上の考え方を示したものが図1です。

3. 今後の取組み

現階段は、構想を発表したところですが、事業化・構想実現化に向けて、ボランティアの体制を強化して、次の機会にまちづくりの

進んだ状況を報告させていただきたいと考えています。

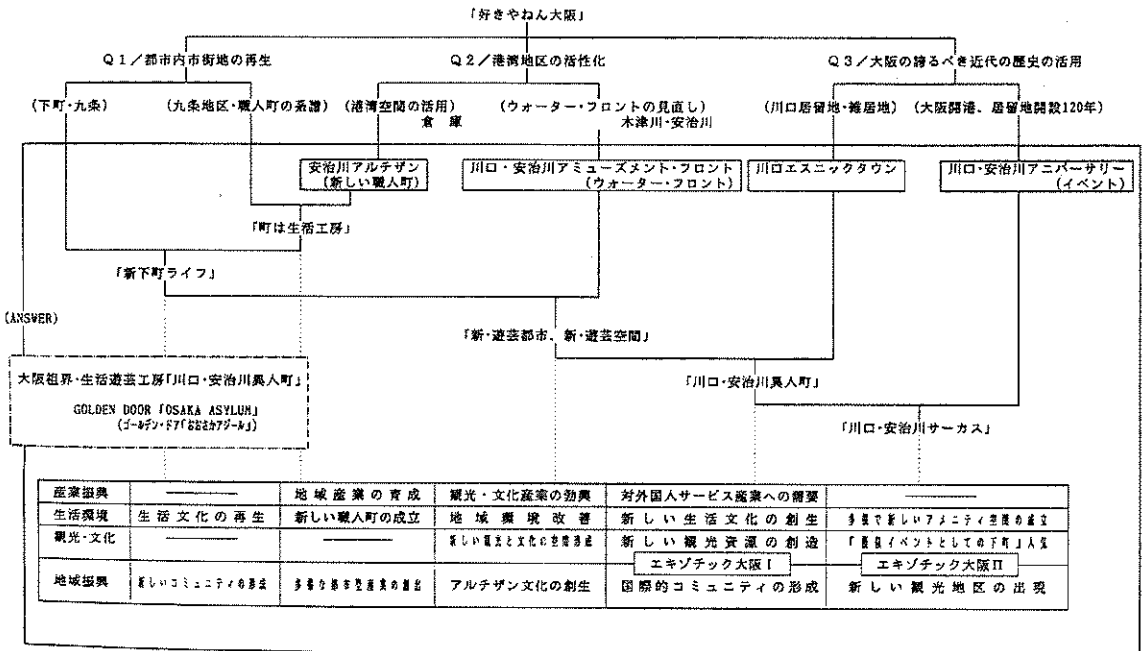
当面、取組んでいることは、古い倉庫の活用
の具体化、倉庫ミニディスカッション（シ
リーズで）、関係機関への協力依頼、シンポ
ジウムなどのイベントの実施などですが、一
つ一つの行動が新しい経験となり、多くの教
訓と多くの人々とのネットワークが拡大して
いることは事実です。

現在、悩んでいることは、活性化とは何か、
ということです。多くの競合と矛盾のある計
画を関係者の合意のもとに進めていくための
方法とストーリーづくりなど課題が無限に広
がっていき、また、そのことにより何とか具
体化したいというファイトが出てきます。

皆様方の御指導と御援助をいただきながら
取組みを強めていきたいと考えています。

（かないまんぞう 大阪事務所長）

図1 異人町構想の構成要素と地区活性化のコンセプト



アルパック・夏の陣—
足助・名古屋研修会
三輪 泰司

7月5日、恒例のOB会。「NAGOYA金しゃち連」提供のテレホンカードが、くじびきの景品で人気筆頭。

7月11～13日。これも恒例となりました夏の全所研修会。三州足助村で名古屋事務所がホストをつとめ、アルパック創立20周年のことしは、ナゴヤ・イヤーの観があります。

〈これが、“足助村”〉

翌朝、ごはんをおいしく頂きました。ほんもののカマドの匂いです。板の床にじかに茶碗を並べてたべる風景も、めったに見られるものではありません。

11日。「三州足助屋敷」の館長代行矢澤長介氏にご案内と説明を頂き、足助町企画課の小沢庄一課長、観光課の大河原静臣課長さんから、焼酎のさし入れまで頂いて、宿泊・研修施設「三州足助村」で、アルパック恒例のエンドレスの研修会。市兵衛から、六助まで6棟の村の家に、6つの世代別グループに別れてディスカッションをくりひろげました。

ここは、自炊方式ですので、小屋にはナガシにイロリ、調理道具に、マキ割りの斧までそろっています。壁には本札あり—

これが、“足助村”

- 一、人の心のふれあうところ
- 一、本物とは何かを考えると
- 一、自ら行うことの価値の分かる
- 一、ものを大切にすると心のわ
- 一、どんな時がきても生きられる

おもえるところ

次代に伝えるものは何だろう。

〈金しゃちの街で〉

2日目は、朝食後バスで名古屋市内へ。

足助からはグリーン・ロード経由で1時間余。池下の厚生年金会館が第2会場。

前夜の世代別討論の報告についてこんどは5つのテーマ別分科会。

1984年夏の飛鳥研修会で、経営革新運動のスタートにあわせて、共通認識を拡げ、長期展望をめざして「個人と組織」を中心に議論しましたが、今回はいわばその中間総括。

この間、仕事の面では関西学研都市、洛南サイエンスタウン、大阪のテクノポートなどのビッグプロジェクトが実際に動いてゆく場面に立ち、他方、町づくり、村おこし、商工業の活性化への地道な努力、さらに名古屋城再建や保育研究などの“時間外”の働きで汗をながしてきました。また所内の事業では、コンピュータ・サイエンスをビルトインしてしまおうと努力してきました。

そのような実戦活動の中で鍛えられた問題意識のぶつかりあう戦場でありました。

フィナーレは、地元名古屋のベンチャービジネス第一線の方々との交流。

名古屋市計画局の都市改造事務所の鈴木主査も、ベンチャーのリーダーと呼ばせて頂いてよいでしょう。名古屋のトヨペットの市川さん、トータルシステムの川本さん、発想のやわらかいこと、たくましい実行力にはおそれいました。東鮎本店の横井社長にも参加頂いて、わが名古屋事務所=金しゃち連事務局ともども、2次会は静かに音楽につつまれて幕となりました。参加は九州・北海道もふくめて90%でした。

(みわひろし 代表取締役社長)

第9回全国町並みゼミに参加して

加藤正裕

今回の町並みゼミは、福島県の白虎隊で有名な会津若松で、7月19～21日の日程で開催されました。茅葺屋根のならぶ大内宿、蔵のまち喜多方などの町並みにも興味がありましたが、何よりも、「町並み保存とふるさと産業おこし」という分科会に魅かれ参加しました。

同じ部屋になった呉服屋の人は、新聞の記事を読んで、すがる思いでやってきたそうです。「町並みと商人文化の創造」という今日のテーマに、何かしらの期待があったのでしょう。話を聞いてみると、和服文化はすたれてきていて、商売をたたむことも考えている。また、町の近くに道路が通るようになり、中心商業地がそこに移り、農業に展望がないため若者が流出しているということでした。よくあることだとは思いますが、何の具体的な手だても、僕にはありませんでした。

こうした歴史的な町並みを保存する場合、観光地として再生する方法が一時期、ふるさと指向のブームに乗って行われました。今回、各地の現状報告の中で、妻籠の人から、観光客が減り収益が下がってきているという話を聞き、また、足助の人からも、日帰りの観光客が多く、その場合一人当たり100円程度しか地元に残らないという話を聞きました。

町並みを売りものにした観光は不安定で、もうからないようです。

このまえ、名古屋市からの依頼で、工業立地環境という調査をしました。その中で、工業の役割について、おおよそ次のような指摘を多くの先生方がされていました。それは第

1次産業、第2次産業という基礎的産業に支えられた第3次産業でなければ、第3次産業の発展には限界があること、また、経済の活性化に貢献するのは、工業、特に製造業だということでした。

町並み保存や村・まちおこしを考えるにあたって、とかく、「まちをとことん愛することだ」と言う人がいます。確かに、それが原点だとは思いますが。しかし、地元の人達にとっては「喰えるか喰えないか」ということであり、歴史的町並みがあるからといって、文化的に豊かな生活ができるわけではありません。やはり、喰えなければならぬのだと思います。

まちの産業政策全体からの見直しが必要なのだと思います。特に、第1次産業・第2次産業対策が重要になってくるのではないのでしょうか。各地で、一村一品とか、デカ木住宅などの動きがあります。そうした運動との連携も必要でしょう。また、様々な分野の学識経験者の助言も必要となるでしょう。

今回、ふるさと産業おこしという分科会が設けられましたが、こうした論議と実践が活発になることを期待しています。

(かとうまさひろ 名古屋事務所)

旧刊新刊書評

続「非まじめ」のすすめ 千輪車の発想

講談社文庫 森 政弘 著

永 田 伊津夫

ロボットから人間へ

著者は、東京工大の制御工学科で制御工学を研究し、オートメーション工場やロボットを作っている。そのロボット工学の権威が、人間が作った機械を人間の意志で制御するのは難しい。この世の中は、一つのことを徹底的にやるには、同時にほかのことがわからないとできないような仕組みになっているつまり、制御工学を完成するには生物学も法律も、経済学も要ると言っている。

このように、一つのことをやるには、他の分野のことも十分に知らなければできないというのがこの本の骨子です。このことは、様々な分野の調整をやり、コーディネートしてゆくことをなりわいとしている我々コンサルタントでも、常日頃、言われていることではありますが、現実には、なかなか思うようにゆかないところです。

人は千輪車

人間の脳の大きさを他の動物と比較し、これを車にたとえてみるところからこの本は始まっている。

まず、ヘビやワニなど爬虫類レベルの脳は、細胞の数も少なく二重構造（新皮質—知恵の座、古皮質—本能の座）になっていないらしく、大脳には古皮質しかない。これは車でいえば二輪車—バイカー—に対応させることができる。爬虫類よりもう少し上等の鳥類はオート三輪—このごろはあまり見かけないが—にたとえられる。そうすると、犬とかライオ



ンといういわゆる哺乳類は、四輪車になる。ここで、人間は同じ哺乳類であるが、車の数でいくと千輪車くらいになるとたとえている。

このように脳が大きいこと—細胞が多ければ—は、もちろん、ヘビの二輪車よりは鳥の三輪車の方が知恵が働くし、鳥の三輪車よりは、ライオンの四輪車の方が知恵はある。だから、人間は千輪車だからものすごい知恵を持っている—と言うか、知恵が出る可能性をそなえている—はずです。

ところが、このように、われわれ人間が、単に車がたくさんあること—脳細胞の数が多い—に喜んでいたのでだめである—と忠告がなされている。それは、車の数が少なければ、それだけ全輪が回ってスムーズに動くが、逆に、人間は車が千輪もあるが、実際にはそのうち三百輪か四百輪は油が回らずキシキシいいながら走っている。したがって、

そんな状態で思うように、まっすぐに走っていないというのが人間であると著者は言っている。

この本の主題は、人間が持っている千の車輪のうち、回っていない三百から四百の車輪をすべて回るようにすること—これを著者は、賦与されている機能をすべて出しつくすという意味で“全機”といている—をいかにして行うかということです。

自分を広げる、知恵が広がる

このように、この本の中では、人間の全機していない千輪車を全機させる方法、考え方がいろいろと述べてありますが、最後に、その中でも“創造の方法”について、概略を載せておきます。

《自己コントロールの方法》

「自分のからだを操る」体操と対比して、「情が思ったように操れる」つまり情操ができるようになると、頭の中で働いていない部分—三百輪か四百輪—を働かせることができるようになり、何を見ても愉快で、何でも生かして使えるようになる。

《アイデアを人にやろう》

アイデアをひとつ他人にあげたら次はどうするかというと、一つアイデアをあげたら、二つひねりだす練習をする。人にあげればあげるほど余計出ることになって、自分はますますアイデアが湧くようになってくる。それだけでも、すでに全機していない車に油が回りかけている。

《自分を強くする方法》

何でもいいから一つ目標を決めて、自分で貫徹してみる。すると、それができたときには気持ちがさっぱりして清々しくなってくる。そうすれば、頭に少しは油が回りだす。

そしてまた、がまんの練習をすると、ひと

りでに自己が強くなってきて、大脳の前頭葉が動きだして、創造性も豊かになる、つまり千輪車の油の回っていない部分に油が回りだすということになる。

《熱中せよ》

ものごとに熱中する。一生懸命、熱中すれば、事をなすとき雑念がなくなり、アイデアも生まれてくる。

《情報をすてよ》

一方、ものごとを考え抜いていると、頭の中がくしゃくしゃしてきて、くたびれてしまう。情報も、頭という紙の中に書かれた字のようなものです。白いレポート用紙でも、それに情報をたくさん書きとめれば、まっ黒になる。字でごちゃごちゃになっているところに、さらにいろんなものを書きとめてみても、それははっきりとは見えない。そうなれば、一度、情報とか知識とかいうことを、全部すてた方がよい。その方法としては、目をつむって腹式呼吸をするとよいとのこと。

(ながたいつお 九州地域計画研究所)

まちかど

歴史的町並みに調和した銀行2題

石本 幸良

最近、歴史的町並みを良好に残している二つの町を訪ねました。一つは所内研修会で訪ねた愛知県足助町、一つは全国町並みゼミで訪ねた福島県喜多方市です。

二つの町で、町を代表する建物のデザインを基調に、古い町並みと連担して、最近建てられた銀行を見つけました。足助町は塗籠造

の町家が多く、喜多方は蔵造の町屋で、どちらも銀行の機能とマッチしたことが理由なのでしょうが、瓦屋根と白壁の組み合わせが、周囲の町並みと調和しています。

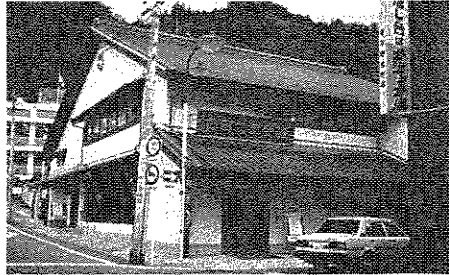
町を代表する古い建物形式を現代に生かすには、現代の数々の機能の要求からしてむずかしいことですが、町の人々が最もよく訪ねる銀行で、町並みとの調和を図る建物が建てられ、町並みの一角を占めることは、人々の町への誇りを高め、周囲の建物への波及効果など、多くのことが期待されます。

(いしもとゆきよし 京都事務所)

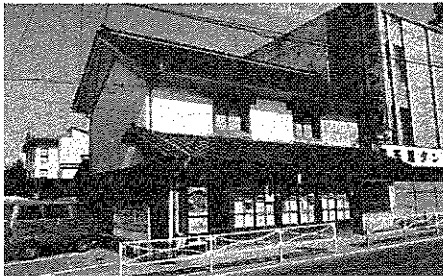
(写真1) 足助町を代表する塗籠造の町家



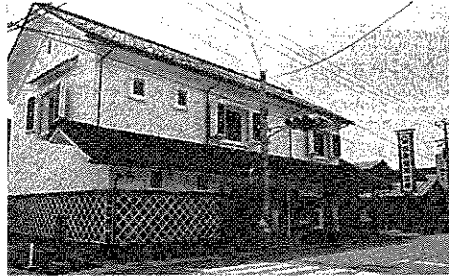
(写真2) 塗籠造の町家のデザインの信用金庫 (足助)



(写真3) 喜多方を代表する蔵造の商家



(写真4) 蔵造のデザインの信用金庫 (喜多方)



ARPA・K (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

- | | | | |
|------------------|------|-----------------------|----------------------|
| 本社 | 〒600 | 京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82 | TEL (075)221-5132(代) |
| 京都事務所 | | (大和銀行京都ビル8階) | |
| 大阪事務所 | 〒540 | 大阪市東区石町1丁目1番地 | TEL (06)942-5732(代) |
| | | (天満橋千代出ビル2号館) | |
| 名古屋事務所 | 〒460 | 名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 | TEL (052)962-1224 |
| | | (ツボウチビル6階) | |
| 九州地域計画
研究所 | 〒810 | 福岡市博多区中洲中島町3-3 児島ビル3階 | TEL (092)281-2349 |
| 北海道地域計画
建築研究所 | 〒047 | 小樽市色内1丁目2番19号 通信浜ビル3階 | TEL (0134)29-1109 |